琉球大学学術リポジトリ

第４回世界のウチナーンチュ大会「世界の『沖縄学』へ」
ー琉球大学とハワイ大学との連携による試みー

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 琉球大学移民研究センター
	公開日: 2018-11-13
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 町田, 宗博, Machida, Munehiro
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002010158

「移民研究」第3号　2007.3

＜報告・記録２＞

第４回世界のウチナーンチュ大会
「世界の『沖縄学』へ」
ー琉球大学とハワイ大学との連携による試みー

町田宗博

2006年10月12日から15日にかけて第4回世界のウチナーンチュ大会が開催された。この大会最終日の15日に琉球大学移民研究センターは，「世界の沖縄学へーハワイ大学との連携による試みー」と題しフォーラムを主催した。（写真1～4）基調講演を琉球大学の高良倉吉教授が行い，山里勝己教授をコーディネータに，ハワイ大学のゲイ・みちこ・薩摩日本研究センター副所長，ジョイス・知念教授，聖田京子教授，スチュワート・ケリー講師，レオン・A・セラフィム助教授，ロバート・N・ヒューイ日本研究センター所長，琉球大学の上里賢一教授がそれぞれ発表を行った後，ラウンドテーブルに移った。当日配布した発表要旨が，資料1から資料19である。13時30分に開始したフォーラムは，予定の時間を超過しウチナーンチュ大会フィナーレ直前の17時30分過ぎに終了した。国内や国外から多数の参加者があり，準備した300部の要旨等の資料は数部を残すのみとなった。

特にこのフォーラムの冒頭で挨拶に立ったハワイ大学理事会事務局長ヨシミツ・デービッド・イハ氏が，ハワイ大学日本文化センターからCenter for Okinawan Studiesの計画が提案されていることにふれ，ロバート・N・ヒューイ日本研究センター所長が発表の中でこれを補足した。海外で初の沖縄研究に関する研究所の設立計画であることから，新聞でも大きく報じられた。（資料20）2007年2月には，センター設立の意義を呼びかける文書もハワイ州の関係者に配布されており，Center for Okinawan Studies設立に向けた予算確保の動きも活性化している。（資料21）この文書において，センター設立の社会的背景として，毎年9月に開催されるオキナワンフェスティバルに代表されるウチナーンチュコミュニティの活発な動きが，ハワイ社会において一定の評価を得ていることや，ハワイ社会が多様な文化の共生・共有を積極的に受入れていることにあると理解されよう。また，センター設置の直接の契機として，ハワイ大学で2004年秋学期から開設された聖田京子教授やレオン・A・セラフィム助教授による「沖縄の言語と文化」講座の開設（「移民研究」第2号，43頁～50頁参照），2006年のハワイ大学出版による沖英事典の刊行が挙げられよう。

移民研究センターが，このフォーラムを主催した経緯はおよそ次のようなことである。最初に，人的交流の背景である。現センター長の筆者が2002年4月から2003年3月にか

けて小淵フェローとしてハワイ東西センターに滞在した。この時の沖縄特別プロジェクト局長が，ロバート・仲宗根氏であった。ロバート・仲宗根氏は，2004年4月から2005年3月にかけて沖縄に滞在し，琉球大学を活動拠点とされていた。また，2005年4月から2006年3月にかけては，前移民研究センター長・仲程昌徳教授が，ハワイ日本文化研究センターに客員教授として滞在した。これらの滞在を媒介として，ハワイと沖縄関係者との日常生活レベルでの相互交流が活性化していた。無論，移民研究センター設立以前から琉球大学とハワイ大学との交流が始まっていたことは言うまでもない。

2004年5月にハワイ大学日本文化センターのロバート・N・ヒューイ所長とゲイ・みちこ・薩摩副所長が琉球大学との研究協力の打診に琉球大学を訪問した。ロバート・仲宗根氏の仲介もあり，移民研究センターは琉球大学の研究者との会議の場を設定した。この時，2001年に他界された崎原貢ハワイ大学教授の遺業である，英語による沖縄語辞典が話題となった。会議の中で，ハワイ大学側，琉球大学側それぞれでこの辞典にかかわる仕事をしている研究者の存在が明らかになった。この仕事には，狩俣繁久教授など沖縄側研究者が協力することとなり，2006年のハワイでの出版に結びつくこととなった。（資料20）結果として，これらの仕事の橋渡しを移民研究センターが担ったことになる。沖縄県は，第4回ウチナーンチュ大会における海外からの参加者に対する記念品の一つとして，この辞典を採用した。

今回のフォーラム開催への直接の経緯は次の通りである。2006年4月ロバート・仲宗根氏から，法務研究科長の島袋鉄男教授などを仲介として，10月のウチナーンチュ大会へハワイ東西センターやハワイ大学スタッフが参加の予定であるが，沖縄側とのフォーラムを開催できないかとの打診があった。4月から博士課程（人文社会科学研究科比較地域文化専攻）が発足した直後でもあり，これを好機ととらえ，ハワイから帰国直後の仲程昌徳教授が窓口となり，関係団体との交渉にあたることになった。最終的に，次のようにフォーラムを開催することとなった。全体のテーマを「沖縄・ハワイ東西センター国際人材育成&沖縄研究世界ネットシンポジウム」とし，午前の第1部と午後の第2部の構成とした。第1部を，ハワイ東西センター沖縄同窓会が主催し，財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団が共催した。第2部を移民研究センターが主催し，琉球大学人文社会科学研究科比較地域文化専攻（博士後期課程）が共催する形とした。第1部の事務局は，国際交流・人材育成財団があたり，第2部の事務局を移民研究センターが担当した。ウチナーンチュ大会事務局との対応等，全体のとりまとめを国際交流・人材育成財団があたった。今回のフォーラムにおいて，共通したフライヤーの作成と複数の機関による広範な人々への参加呼びかけは，主催者の予想をはるかに上回る多数の参加者をもたらし，内容としても好評なものとなった。

最後に今回のフォーラム開催の経費について記録しておく。発表者としてハワイ大学か

ら6名の先生方に出席いただいたが，旅費・滞在費・謝金等一切の経費を沖縄側は負担していない。沖縄側参加者を含め，フォーラム出席に関わる経費はすべて参加者の負担となった。ここに印し，心より感謝申し上げる次第である。また，ウチナーンチュ大会事務局からは，沖縄コンベンションセンター会議場の使用料を免除いただくとともに 55 万円余の財政支援をいただいた。これらは，英語同時通訳業務，同時通訳音響システム運営委託費，印刷費，事務局経費として使用した。さらに，ハワイ大学大学院生・山里（前原）絹子，マンマナ・フランセス，一橋大学大学院生・伊佐由貴，琉球大学学生・下山恵実，仲本いつ美の諸氏には，フォーラム開催にいたる業務を手助けいただいた。ハワイ大学大学院生・赤嶺ゆかり氏には，独自の視点からフォーラム開催について新聞に投稿いただいた。これらの機関，各位に併せて感謝申し上げる次第である。

今回，ロバート・仲宗根氏の尽力に発し，個々の学問分野や機関を越えた人々が，このフォーラムに収束し，結果として移民研究センターはこれを束ねることとなった。以上を記しフォーラムの記録とする。

写真1：ヨシミツ・デービット・イハ氏挨拶

写真2：ラウンドテーブル

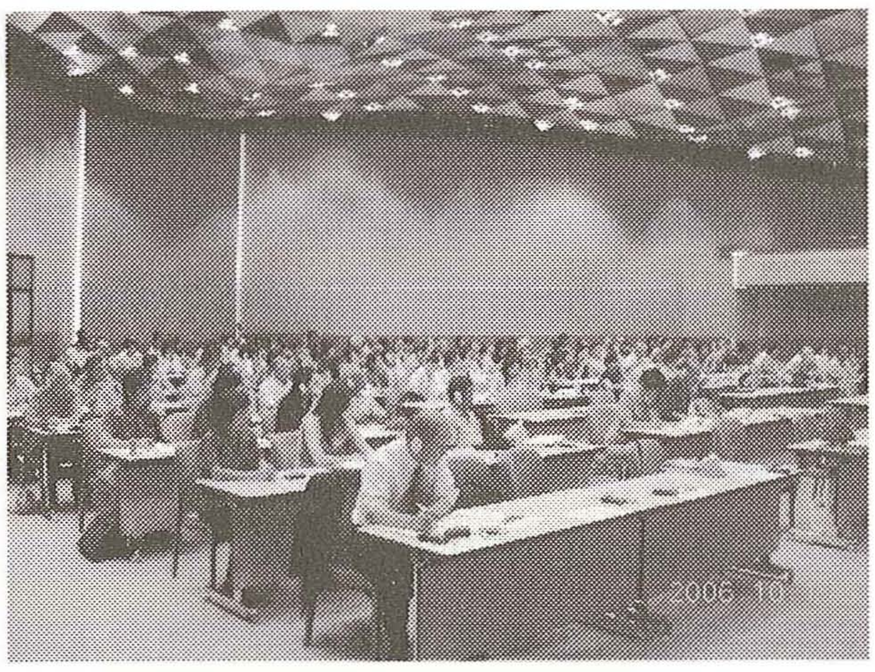


写真3：会場風景

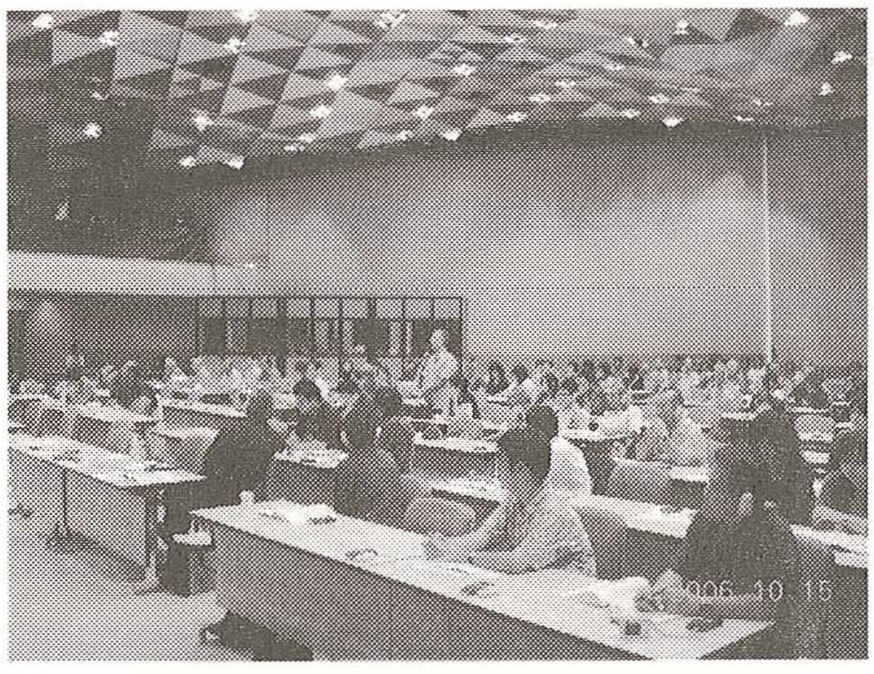


写真4：フロアーからの質疑

（まちだ　むねひろ・琉球大学移民研究センター長・教授・人文地理学）

資料—1

『沖縄・ハワイ東西センター国際人材育成＆沖縄研究世界ネットシンポジウム【第Ⅱ部】』

「世界の『沖縄学』へ」
～琉球大学とハワイ大学との連携による試み～

"Okinawan Studies" in Global Contexts
－Collaborations between the University of the Ryukyus and the University of Hawai'i－

2006年10月15日（日）　13：30～17：00
沖縄コンベンションセンター会議場　A－1

Date: October 15, 2006 (Sunday) 13:30-17:00
Place: Okinawa Convention Center Conference Room

主催　琉球大学移民研究センター
共催　琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻（博士後期課程）

Sponsorship: Center for Migration Studies of the University of the Ryukyus
Co-sponsorship: Comparative Cultures and Area Studies in Graduate School of Humanities and Social Sciences (Doctoral Program), College of Law and Letters, University of the Ryukyus

資料—2

シンポジウムの開催にあたって

琉球大学移民研究センター教授
琉球大学大学院比較地域文化専攻教授
仲程昌徳

琉球大学では、長年待ち望まれていた博士課程（人文社会科学研究科比較地域文化専攻）が創設され、今年、最初の学生を迎えた。これまで学部、修士課程止まりであった研究が、さらに一段高められ、新しい時代が始まったといえるが、そのような動向は、琉球大学だけに留まるものではない。

ハワイ大学東アジア言語・文学科では、数年前から『沖縄語と文化』の授業が始まったばかりでなく、近年、「オキナワン・スタディーズ」への取り組みが本格的になりつつある。

琉球大学、ハワイ大学のそのような状況を踏まえ、両大学が連携して、あらたな「沖縄学」への道のりを切り開き、世界へ発信するための第一歩を築いていく。

本シンポジウムでは、「沖縄学」の全体的な認識とともに、今、琉球大学、ハワイ大学における沖縄関係講座で何がなされ、何が問題になっているか等について、沖縄に迎える世界のウチナーンチュに紹介する。また、両大学での実践を踏まえて、世界の「沖縄学」への可能性を探っていく。

Remarks for the opening of the symposium

Masanori Nakahodo
Center for Migration Studies of the University of the Ryukyus
Comparative Cultures and Area Studies,
Graduate School of the University of the Ryukyus

University of the Ryukyus has launched a long-expected doctoral program in Comparative Cultures and Area Studies in Graduate School of Humanities and Social Sciences in the College of Law and Letters, and welcomed the first students this year. This would mark the dawn of the new era with extending the academic capacity beyond bachelor's and master's degree level; however, this new movement is not limited to the University of the Ryukyus.

Since a few years ago, the Department of East Asian Languages and Literatures of the University of Hawai'i has begun a course titled *Okinawan Language and Culture* and "Okinawan Studies" is now gaining more and more academic interests.

Therefore, we have come to believe that University of the Ryukyus and University of Hawai'i, joining hand in hand, will be able to explore and promote "Okinawan Studies" globally.

In this symposium, we aim to introduce an outline of Okinawan Studies as well as contents and issues of the courses on Okinawan related materials both in the University of the Ryukyus and the University of Hawai'i to the participants of the 4th Worldwide Uchinanchu Festival. We also aim to explore new possibilities of "Okinawan Studies" in global contexts based on research experiences in both universities.

資料—3

プログラム

13:30pm　◆開会

司会　町田宗博（琉球大学移民研究センター長）

13:35pm　◆挨拶

ヨシミツ・デービッド・イハ（琉球大学名誉博士、ハワイ大学理事会事務局長、元カウアイ短期大学長）

13:40pm　◆基調講演

テーマ:「『世界の沖縄学』を目指すために」

講　師:高良倉吉（琉球大学大学院比較地域文化専攻　教授）

14:30pm　◆ラウンドテーブルディスカッション

テーマ:「琉球大学、ハワイ大学におけるオキナワン・スタディーズ」

コーディネーター

山里勝己（琉球大学大学院比較地域文化専攻教授、ハワイ大学客員教授、琉球大学アメリカ研究センター長）

パネリスト

ゲイ・みちこ・薩摩（ハワイ大学マノア校　日本研究センター　副センター長）
「琉球大学とハワイ大学の交換留学プログラムについて
—国際教育と親善交流を目指して—」

ジョイス・知念（ハワイ大学ウエストオアフ校　社会学　教授）
「『沖縄人の地域性・国際性』講座をとおして
オキナワンアイデンティティを教えること」

聖田京子（ハワイ大学マノア校　東アジア言語・文学科　教授）
「ハワイ大学で教える『沖縄語と文化』講座について」

スチュワート・ケリー（ハワイ大学マノア校　日本研究センター　講師）
「沖縄語の記録と保存について　なぜ？　どのように？」

レオン・A・セラフィム（ハワイ大学マノア校　東アジア言語・文学科　助教授）
「ハワイ大学における琉球研究と琉球大学との連携」

ロバート・N・ヒューイ（ハワイ大学マノア校　日本研究センター　センター長）
「ハワイ大学におけるオキナワン・スタディーズ　過去・現在・未来」

上里賢一（琉球大学大学院比較地域文化専攻　教授）
「琉球大学における沖縄研究の現状と課題」

17:00pm:　◆閉会の挨拶

仲地　博（琉球大学大学院人文社会科学研究科長、法文学部長）

資料—4

Program

13:30pm ◆**Opening**

MC, Professor Munehiro Machida,

Director, Center for Migration Studies, University of the Ryukyus

13:35pm ◆**Opening Remarks**

Dr. Yoshimitsu David Iha,

Honorary Doctor, University of the Ryukyus

Executive Administrator and Secretary, Board of Regents, University of Hawai'i

Former President, Kauai Community College

13:40pm ◆**Keynote Lecture: Toward "Okinawan Studies for the World"**

Professor Kurayoshi Takara,

Comparative Cultures and Area Studies, Graduate School of Humanities and Social Sciences, College of Law and Letters, University of the Ryukyus

14:30pm ◆**Roundtable Discussions**

"Okinawan Studies at the University of the Ryukyus and the University of Hawai'i

Coordinator

Professor Katsunori Yamazato,

Comparative Cultures and Area Studies, Graduate School of Humanities and Social Sciences, College of Law and Letters, University of the Ryukyus

Affiliate Professor, Department of American Studies, University of Hawai'i

Director, American Studies Center of the University of the Ryukyus

Panelists

Ryudai-UH Student-Exchange Program: Promoting International Education and Fostering Friendships

Gay Satsuma,

Associate Director, Center for Japanese Studies, University of Hawai'i at Mānoa

Teaching About Okinawan Identity through *Okinawans Locally & Globally* Course and Study Tour

Joyce N. Chinen,

Professor of Sociology, University of Hawai'i-West O'ahu

"Okinawan Language & Culture Courses" Taught at UH-Manoa

Hijirida Kyoko,

Professor of Japanese, Department of East Asian Languages and Literatures, University of Hawai'i at Mānoa

Documenting and Preserving the Okinawan Language: Why and How

Stewart Curry,

Instructor in Japanese, University of Hawai'i at Mānoa

資料—5

Aspects of Ryukyuan Studies at the University of Hawai'i and the Ryukyu University Connection
Leon A. Serafim,
Associate Professor of Japanese, Department of East Asian Languages and Literatures, University of Hawai'i at Mānoa

Okinawan Studies at UH -- Past, Present, and Future
Robert N. Huey,
Professor of Japanese, Department of East Asian Languages and Literatures, University of Hawai'i at Mānoa

The Current Situation and the Issues of Okinawan Studies at the University of the Ryukyus
Kenichi Uezato,
Professor of Chinese Literatures, Comparative Cultures and Area Studies, Graduate School of Humanities and Social Sciences, College of Law and Letters, University of the Ryukyus

17:00pm ◆**Closing Remarks**
Professor Hiroshi Nakachi,
President of the Graduate School of Humanities and Social Sciences, President of the College of Law and Letters, University of the Ryukyus

資料—6

「世界の『沖縄学』へ」

－琉球大学とハワイ大学との連携による試み－

◆基調講演

「世界の沖縄学」を目指すために

琉球大学大学院比較地域文化専攻
琉球史　教授 高良倉吉

【要旨】

沖縄（琉球）の歴史や文化を研究する学問を「沖縄学」と呼ぶならば、その学問はこの1世紀のあいだ、歴史そのものに強く拘束されてきた。1879年の事件によって、琉球王国の土地は、日本の中の沖縄県となった。そのために、沖縄はなぜ日本なのか、そのことを説明するための言葉として、「沖縄学」が必要とされてきた。そしてまた、沖縄（琉球）の歴史や文化の中に日本と共通するもの、あるいは日本の原点を確認することが盛んとなった。そのような態度が、約1世紀も続いてきたのである。沖縄（琉球）の歴史や文化の価値を、日本という枠組みの中で説明する態度は、約30年前から大きく変化し始めている。沖縄（琉球）の歴史や文化を考えるために、日本という枠組みの存在を取り除いて、「沖縄に住む現在のわれわれにとって、沖縄（琉球）の歴史や文化は、どのような意味を持っているか」、という関心が高まってきたからである。そのために、沖縄（琉球）そのものの歴史や文化の実態を詳しく検討する態度が台頭しただけでなく、アジア太平洋という大きな拡がりの中で、沖縄（琉球）を考え直すことが盛んとなった。つまり、「日本の中の沖縄（琉球）」にのみこだわるのではなく、「日本の外の沖縄（琉球）」にまで視野を拡大する態度が必要だと強調されてきた。沖縄（琉球）と日本の関係に限定して歴史や文化を考えるのではなく、その関係は、沖縄（琉球）を考える重要なテーマの一部でしかない、という問題意識が大きな力を持ち始めた。現代という時代において、沖縄（琉球）の歴史や文化を知りたいと思う人々は、日本という国家の内部に属する人々のみではなく、アジア太平洋地域の人々や、あるいは世界の人々も含まれると考えたほうが良い。沖縄（琉球）という存在の価値を一方的に決めるのではなく、多様な関心を持つ人々が自由に語ることが出来るようにするために、何が必要なのか、そのことについて私の意見を述べたい。

◆ディスカッション

「琉球大学とハワイ大学の交換留学プログラムについて
—国際教育と親善交流を目指して—」

ハワイ大学マノア校　日本研究センター
副センター長　ゲイ・みちこ・薩摩

【要旨】

2000年の開始以来、琉球大学とハワイ大学の交換留学プログラムは、沖縄とハワイからの留学生の学習の架け橋となっている。本報告では、その交換留学プログラムについて、参加学生の経験や成果そして今後の可能性を述べたい。（訳：山里絹子）

資料—7

「『沖縄人の地域性・国際性』講座をとおして オキナワンアイデンティティを教えること」

ハワイ大学ウエストオアフ校　社会学
教授　ジョイス・知念

【要旨】

本報告では、アカデミック講座とスタディツアーを提供することによって、オキナワンアイデンティティに関する問題がどう探求されてきたのか議論したい。本報告では、以下の四点、1）講座とスタディツアーが展開されてきた社会・歴史的な文脈、2）講座とツアーの構造的関係性、3）講座とツアーの内容、4）講座とツアーの成果・評価について述べたい。最初に、ハワイ沖縄移民百年記念祭の開催について述べ、さらにそれがディアスポラ移民およびコミュニティについて深く考察する機会になったことを述べる。第二に、つながりが明白でないアカデミック講座とスタディツアーについて、それら二つを統合させる試みについて述べたい。第三に、単に地域研究でもなく、特別な概念を教えるものだけでもない、非伝統的な授業づくりに挑戦するために、多様な要素を結びつけ経験重視型の授業形態をつくる試みを行っていることについて報告したい。特に、適切な情報提供者、指導者、そして支援者の必要性やそれらをどう確保するかの問題について議論したい。最後に、受講した学生とツアー参加者が自分自身の経験をどう評価したのかについて述べる。そして、オキナワンアイデンティティ研究の方向性についていくつか提案したい。（訳：山里絹子）

「ハワイ大学で教える『沖縄語と文化」講座について」

ハワイ大学マノア校　東アジア言語・文学科
教授　聖田京子　（ひじりだ　きょうこ）

【要旨】

ハワイ大学東アジア言語・文学科では2004年秋学期より『沖縄の言語と文化』講座を開講している。開講準備の基本はカリキュラムの枠組みと教材の選択であった。筆者は枠組みの基本を米国における外国語学習ナショナル・スタンダードの5C、即ちCommunications, Cultures, Connections, Comparisons, Communities を採用した。その上で、教育目標、内容と教材、学習活動及びプロセス、評価項目を設定した。教材の準備には琉球大学と沖縄国際大学の協力に加えて、ハワイ大学日本研究センターによる支援があった。２年間に亘る準備作業の後、現在当学部には２つの講座が設立され、筆者の教えている講座の内容は、沖縄の言語、諺、民話、歴史上の人物、年中行事、歌と踊り、料理、ハワイの沖縄県系人コミュニティの８つの領域を取り入れてある。教育目標は1）沖縄語の言語研究上の重要性を理解すると共に、基本文法を習得し、初級レベルでのコミュニケーションをタスクで学ぶ。2）沖縄文化を理解し、価値観や考え方をクラスでの実践を通して学ぶ。3）ハワイにおける沖縄県系人コミュニティの文化活動に参加し、かつ楽しめるように努力する。基本的な学習が終わると、学生は各自のテーマで研究し、ペーパーを書き、発表することとし、それによりクラス全員が更に沖縄学の幅と深みを加え、沖縄理解に至ることを目指す。目下学習希望者が多く、沖縄学の将来に明るい兆しがみられる。今後の課題はアメリカの大学で有意義な沖縄学が提供できる様に、内容、カリキュラム、教授法に関する研究等を更に深めていく事である。

資料—8

「沖縄語の記録と保存について　なぜ？どのように?」

ハワイ大学マノア校　日本研究センター
日本語　講師　スチュワート・ケリー

【要旨】

言語の記録と保存は、言語の消失による言語多様性の減少に対応する言語学の下位区分である。世界中の無数の言語が、次世代の話し手に継承されずに失われる危機にさらされている。沖縄語も、流暢な話し手の高齢化により、幾分危険にさらされている。しかしながら、話し手の数はまだ比較的多く、かなりの量の記録も教育もなされているし、またリバイバル運動もある。まったく記録されてこなかった言語に比べると消失の危険性は大きくはないが、今後さらに基盤を強めるために少なくても次の2点を指摘したい。第一に、これまでの沖縄語の記録のほとんどが日本語でなされており、興味があっても日本語の知識がない言語学者や非研究者は利用することができない状態にある。第二に、首里・那覇のいわゆる“標準”沖縄語以外の琉球語の多様性は記録されていない。ハワイ大学では沖縄語の保存に向けていくつかの先進的な取り組みがなされてきた。言語学科言語記録所は、ネイティブスピーカーの協力を得て、今まで記録されていない言語の参考・保存資料の作成を行っている。まだ少ないが沖縄語に関しても進んでいる。更に、日本研究センターは、英語による沖縄語の参考資料の出版を支援しているが、その中には、崎原貢先生が収集されたものを基に作られたOkinawan-English Wordbookや、Comprehensive Portrait of its Modern and Historical Vocabulary（タイトル検討中）などがある。（訳：山里絹子）

「ハワイ大学における琉球研究と琉球大学との連携」

ハワイ大学マノア校　東アジア言語・文学科
助教授　レオン・A・セラフィム

【要旨】

筆者は、1975年から1977年の間、琉球大学で勉強した。琉球語史を専門にしているいわゆる琉球研究家（リューキュアニスト）である。本報告では、筆者のハワイ大学マノア校での研究および沖縄・琉球大学との関係について述べたい。筆者は、ハワイ大学マノア校で初めて開講された『沖縄の言語と文化』講座を聖田京子先生から引き継ぎ、沖縄芸能に焦点をあてて授業を行った。開講時から『沖縄の言語と文化』講座は、定員数である25の席を全て埋めることができた。講座を展開するにあたり、琉球・沖縄文学の専門家である琉球大学の仲程昌徳先生から貴重な助言と協力をいただいた。また、琉球大学の狩俣繁久先生の琉球語データベースをウェブ上で活用することができた。筆者は、大学院の授業で琉球方言データを用い日本語史を教えている。また、現在同僚であるハワイ大学マノア校のスチュワート・ケリー博士（今帰仁）、琉球大学の島袋盛世博士（アクセント史）、そしてジョン・ベントレイ博士（先島）などに、ハワイ大学で言語学博士号を取得する際、指導・助言を行った。また、日本研究センターからは、筆者が歴史学部の沖縄歴史の講座を教えるにあたり協力を得た。また、数年前に亡くなられた崎原貢先生が担当していた講座を筆者が受け継ぐことになったが、幸いにも受講生の数も確実に増えた。また、崎原貢先生が残した沖英辞典の草稿は、彼の妻・ジィーン崎原氏、スチュワート・ケリー先生（編集）、狩俣繁久先生と筆者（監修）、島袋盛世先生（編集連絡）、ハワイ大学日本研究センター、ロバート仲宗根氏（ハワイ東西セ

ンター）、琉球大学の仲程昌徳先生、町田宗博先生を含め、ハワイ大学マノア校と琉球大学の多くの方々の協力によって幸運にも完成することができた。その沖英辞典は今年７月に出版された。また、2009 年にはより包括的な辞書の刊行が予定されている。上述のことは、両大学における琉球研究者間の連携による成果のほんの一部にすぎない。（訳：山里絹子）

「ハワイ大学におけるオキナワン・スタディー　過去・現在・未来」

ハワイ大学マノア校　東アジア言語・文学科
教授　ロバート・N・ヒューイ

【要旨】

来年、ハワイ大学は創立 100 周年を迎える。本報告では、まず、ハワイ大学におけるオキナワン・スタディーの始まりを振り返り、そして現在、ハワイ大学でアメリカンスタディー学科を含む多くの学科でオキナワン・スタディーがどう行われていのかを概観する。また沖縄研究センターの設立など、今後のオキナワン・スタディーの方向性についても述べたい。さらに、本報告では、ハワイ大学と琉球大学の連携による崎原貢先生の沖英辞典の完成と両大学の連携プログラムの実施計画についても述べたい。（訳：山里絹子）

琉球大学における沖縄研究の現状と課題

琉球大学大学院比較地域文化専攻
中国文学　教授 上里賢一

【要旨】

比較地域文化専攻は、本年（2006）４月に設置された。人文・社会関係の博士課程としては、沖縄県内最初の専攻である。沖縄の持つ地理的・歴史的・文化的条件を生かした教育と研究を推進し、琉球・沖縄研究の国際的研究拠点の形成を目指している。琉球大学は、県内唯一の総合大学として、法文、教育、理学、工学、農学、医学の各学部を持っている。教育学部以外の全ての学部に大学院博士課程が設置されており、いずれの学部でも、地域と密接に関係した研究に取り組んで、特色を発揮している。理学部の珊瑚礁と海洋資源、農学部の亜熱帯農業、醸造科学、工学部の太陽光、風力、波力、医学部の感染症、熱帯・亜熱帯医療、そして法文学部の琉球・沖縄を中心とする比較地域文化研究等である。法文学部には、政治、経済、法律、社会、哲学、心理、言語、文学、歴史、地理、民俗、考古等の研究分野がある。それぞれの研究対象は、地域的には琉球弧、日本、アジア、太平洋島嶼、アメリカ、ヨーロッパ等の広い範囲をカバーしている。各研究分野は、その対象とする地域とクロスし、同時に各地域間の比較という視点の設定によって、本学部独自の魅力的な研究課題の創出を可能にしている。附属図書館には、郷土資料室（伊波文庫、仲原文庫、崎原文庫、大浜文庫、仲宗根資料、宮良殿内資料等を収蔵）を中心にして、琉球・沖縄関係、アジア太平洋関係資料が備えられている。本学には、アジア太平洋島嶼研究センター、アメリカ研究センター、移民研究センターがあり、法文学部には、アジア研究施設がある。比較地域文化専攻では、これらの各研究センター・研究施設と密接に連携して、教育・研究に取り組んでいきたい。同時に、人文・社会関係分野における琉球・沖縄研究の国際的ネットワークの拠点として、周辺のアジア諸国をはじめ、移民等を通して関係の深いハワイ大学との連携の強化を図りたい。

資料—10

"Okinawan Studies" in Global Contexts - Collaborations between the University of the Ryukyus and the University of Hawai'i -

◆Keynote Lecture

Toward "Okinawan Studies for the World"

Kurayoshi Takara,
Professor of Ryukyuan History,
Comparative Cultures and Area Studies,
Graduate School of Humanities and Social Sciences,
College of Law and Letters,
University of the Ryukyus

Abstract

If we were to call an academic discipline that deals with research on Okinawa (Ryukyu)'s history or culture "Okinawan Studies," this academic discipline has been restricted tightly to history itself. Lands of the Ryukyuan Kingdom came to be called Okinawa Prefecture of Japan by the incident of 1879. For that reason, as a term to explain why Okinawa is part of Japan, scholars used the term "Okinawan Studies." Also, it became popular to find common elements within history or culture of Okinawa (Ryukyu) with Japan, and Japan's origin. Such a stance has lasted no less than one century. The stance to explain the value of Okinawa (Ryukyu)'s history or culture within the framework of Japan has started to change approximately three decades ago. This is because when thinking of Okinawa (Ryukyu)'s history or culture, there has been much attention on removing the framework of Japan, and instead giving much more attention to "what do Okinawan (Ryukyuan) culture and history mean?" Therefore, not only has the stance of carefully analyzing Okinawa (Ryukyu)'s history or Okinawa itself aroused, but also rethinking Okinawa (Ryukyu) within the Asian Pacific realm has become popular. In other words, the necessity of a broader visional stance, such as not only concentrating on Okinawa of Japan, but also a visional stance of "Okinawa (Ryukyu) outside of Japan" has been emphasized. The academic issue that considering Okinawa (Ryukyu)'s history or culture is nothing but one important theme has attained big power. In this new era, it is better to think that the people who want to know Okinawa (Ryukyu)'s history or culture are not only those who belong to the nation of Japan but are also in the Asian Pacific realm or even worldwide. I would like to say my opinion on what is necessary for people with diverse interest to talk freely about Okinawa (Ryukyu) without claiming a one-sided opinion on the value of the presence of Okinawa (Ryukyu).
(Translated by Kohei Yamazato)

◆ Roundtable Discussions

Ryudai-UH Student-Exchange Program: Promoting International Education and Fostering Friendships

Gay Satsuma,
Associate Director,
Center for Japanese Studies of the University of Hawai'i at Mānoa

資料—11

Abstract

Since its inception in 2000, the Ryudai-UH student-exchange program has been a bridge of learning for students from Okinawa and Hawai'i. In this presentation, I will explain the student-exchange program, present students' experiences, and evaluate its outcomes and future potentials.

Teaching About Okinawan Identity through *Okinawans Locally & Globally* Course and Study Tour

Joyce N. Chinen,
Professor of Sociology,
University of Hawai'i-West O'ahu

Abstract

This paper discusses how the topic of Okinawan identity has been explored via an academic course and study tour. It is divided into four sections which describe: 1) the socio-historical context for the development of the course and study tour; 2) the structuring of the relationship between the course and the study tour; 3) the content of both the course and study tour; and 4) the results and/or reception of the course and the study tour. The first part examines the Centennial Commemoration of Okinawan Immigration to Hawai'i and the opportunity it provided for reflection and thinking about diasporic immigration, and community legacies. The second part considers the two related, but discreet entities – an academic course and a study tour – and the challenges of integrating the two entities. The third part focuses on the challenges of creating a non-traditional course, neither fully area studies nor fully a conceptual specialization, and the efforts to tie the various elements to form a set of content-reinforcing experiences. In particular, the need for collaboration and the challenges of locating appropriate informants, guides, and support people will be discussed. Lastly, the paper looks at how students and those who went on the study tour evaluated their participation in and experiences of these two activities. The paper closes with some thoughts about the possibilities for future studies of Okinawan identity(ies).

"Okinawan Language & Culture Courses" Taught at UH-Manoa

Hijirida Kyoko,
Professor of Japanese,
Department of East Asian Languages and Literatures,
University of Hawai'i at Mānoa

Abstract

This presentation focuses on the "Okinawa Language & Culture" Courses at the University of Hawaii, discussing its development, curriculum, and teaching. In 2004, Department of East Asian Languages and Literatures at UH implemented the Okinawa study. To accomplish, a 2-year preparation project was undertaken to set the framework, contents, and curriculum designs. An effort was made to incorporate Communications, Cultures, Connections, Comparisons, and Communities

(5Cs) stipulated in the US National Standards of Foreign Language Studies. The objectives, contents, materials, classroom activities, and evaluation tools were developed through the Center for Japanese Studies' support at UH and accomplished through cooperation with the University of the Ryukyus and the Okinawa International University. The course contents include the language, proverbs, folktales, historical figures, annual events, music & dance, food, and Hawaii's Okinawan communities. The objectives are: (1) understand the importance of the Okinawan language, basic grammars, and practical communication through tasks; (2) understand the cultural values and ways of thinking through practices in classroom; and (3) further appreciation by participating in cultural events and activities of Hawaii's local Okinawan communities. After completing the basic lessons, students are encouraged to pursue own interests, write a paper, and increase their knowledge of the subject matter. At this juncture, more and more students take interest in the study, giving a glimpse of bright future for the program. Refining the contents, curriculum design, and teaching method may enhance and promote meaningful Okinawa Studies in American colleges and universities.

Documenting and Preserving the Okinawan Language: Why and How

Stewart Curry,
Instructor in Japanese,
University of Hawai'i at Mānoa

Abstract

Language documentation and preservation is a subdiscipline of linguistics aimed at stemming declines in linguistic diversity due to language death. Thousands of languages world-wide are considered to be in danger of being lost through non-transmission to following generations of speakers. Okinawan, with an aging population of fluent speakers, is to some degree endangered. However, the number of speakers is still comparatively large and there is a fair amount of existing documentation as well as education and revival movements. The threat is not as great as that facing completely undocumented languages, but at least two areas of opportunity exist to expand on a good foundation: first, nearly all documentation of Okinawan is in Japanese, inaccessible to the general community of linguists and to interested non-scholars without recourse to Japanese. Second, many varieties of Ryukyuan other than Shuri-Naha "standard" Okinawan are underdocumented. Work on Okinawan conservation proceeds on a couple of fronts at the University of Hawai'i. The Department of Linguistics Language Documentation Center, which trains native speakers of underdocumented languages to produce reference and preservation materials, has a small but growing body of work on Okinawan. In addition, the Center for Japanese Studies is sponsoring the publication of reference works on Okinawan in English, including the *Okinawan-English Wordbook*, a short glossary of Okinawan based on Mitsugu Sakihara's original compilation, and the upcoming *Compleat Okinawan ---- a Comprehensive Portrait of its Modern and Historical Vocabulary* (working title), a full-scale dictionary of the language.

資料—13

Aspects of Ryukyuan Studies at the University of Hawai'i, and the Ryukyu University Connection

Leon A. Serafim,
Associate Professor of Japanese,
Department of East Asian Languages and Literatures,
University of Hawai'i at Mānoa

Abstract

I studied at the University of the Ryukyus (UR) from 1975 to 1977. I am a Ryukyuanist, specializing in Ryukyuan language history. I will discuss my work at the University of Hawaii at Manoa (UHM), and its relation to Okinawa and UR. After Professor Kyoko Hijirida's first-semester course, I teach the second semester of two third-year courses on Okinawan Language and Culture, and I focus on the Okinawan performing arts. Last semester's inaugural class succeeded in filling all 25 available seats. UR Professor Nakahodo Masanori, an expert in Traditional and Modern Okinawan Literature, helped greatly. We used UR Professor Karimata Shigehisa's Web-based Ryukyuan Language Database. I also teach Japanese-language-history graduate courses using Ryukyu-dialect data. I have helped train linguistic scholars with UHM PhD's, such as my colleague Dr. Stewart Curry (Nakijin), UR Professor Shimabukuro Moriyo (accent history), and Professor John Bentley (Sakishima). Additionally, the Center for Japanese Studies facilitates my teaching Okinawan history for the History Department. After UHM Professor Mitsugu Sakihara passed away several years ago, his course went untaught. I volunteered to teach the course, which has enjoyed steadily increasing numbers. Professor Sakihara also left behind his Okinawan-English-Dictionary draft. Luckily, many (both at UHM and UR) cooperated to fulfill his dream, including his widow, Ms. Jean Sakihara, Stewart Curry (UHM, Editor), Karimata Shigehisa and I (UR & UHM, Supervising Editors), and Shimabukoru Moriyo (UR, Editorial Liaison), the UHM Center for Japanese Studies, Robert Nakasone (East-West Center), and Nakahodo Masanori & Machida Munehiro (UR). The *Okinawan-English Wordbook* came out in July. In 2009, a comprehensive dictionary will appear. The above represents only a fraction of Ryukyuanists' cooperation at these universities.

Okinawan Studies at UH -- Past, Present, and Future

Robert N. Huey,
Professor of Japanese,
Department of East Asian Languages and Literatures,
University of Hawai'i at Mānoa

Abstract

The University of Hawai'i is facing its 100th anniversary next year, so my presentation will look back at the beginnings of Okinawan Studies at the University of Hawai'i, review what we are doing now in various departments, including American Studies, and look to the future, with reference to the prospects of UH opening a Center for Okinawan Studies. I will also discuss present and future plans for collaboration between the University of Hawai'i and the University of the Ryukyus,

including a full version of the Sakihara Okinawan-English Dictionary, and possible joint certificate and degree programs.

The Current Situations and the Issues of Okinawan Studies at the University of the Ryukyus

Kenichi Uezato
Professor of Chinese Literatures,
Comparative Cultures and Area Studies,
Graduate School of Humanities and Social Sciences, College of Law and Letters,
University of the Ryukyus

Abstract

In April 2006, the doctoral program Comparative Cultures and Area Studies was established. It is the first program in Okinawa that gives doctorial degrees relating in the Humanities and Social Sciences. It aims to promote education and research by making use of Okinawa's unique geographical, historical, and cultural elements. The University of the Ryukyus is the only comprehensive university in the prefecture and provides education in Law and Letters, Education, Science, Engineering, Agriculture, and Medicine. With the exception of the College of Education, each college provides doctoral programs and has unique features conducting research with deep connections with the local community. The research areas unique to the university are coral reef and ocean resources studies of the College of Science, subtropical agriculture, brewing science of the College of Agriculture, solar energy, wind power, wave power of the College of Engineering, infectious disease, subtropical medicine of the School of Medication, and comparative cultures and area studies of the College of Laws and Letters. The College of Law and Letters has research areas in Political Science, Economics, Laws, Sociology, Philosophy, Psychology, Linguistics, Literature, History, Geometry, Ethnic Studies, and Archaeology. Each research area covers vast regions such as the Ryukyuan arc, Japan, Asia, the Pacific Islands, the United States of America, and Europe. Each research field aims to come across with these areas, and at the same time, by developing a view point of comparative studies to these areas, it has made it possible to create attractive issues which are unique to this college. The university library has the local resource room which include the Iha collections, the Nakahara collections, the Sakihara collections, the Oohama collections, the Nakasone resources, the Miyara Dunchi resources, and also houses Ryukyuan/Okinawan, Asian Pacific related resources. At our university, there are Asian Pacific Islands Studies Center, American Studies Center, Immigration Research Center, and the Laws and Letters department has Asia research facilities. The Comparative Regional Cultures and Area Studies program will create close connections with these research centers and research facilities and conduct research and education. At the same time, as an international network stronghold of Okinawan/Ryukyuan Studies in the Humanities and Social Sciences, we would like to create strong connections with neighboring Asian countries, and with University of Hawaii where we have a deep relationship through immigration from Okinawa. (Translated by Kohei Yamazato)

資料—15

Como crear el campo de estudios Okinawenses para el mundo

Profesor Kurayoshi Takara
Cultura Comparativa y Area de Estudios
Facultad a nivel graduado de Humanidades y Ciencias Sociales,
Colegio de Letras y Leyes, Universidad de los Ryukyus

Resumen

Si la investigación de historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) fueran llamados Estudios Okinawenses estos estudios se limitarian al campo de la historia. En el suelo del reino ryukyuano se convirtió en la prefectura de Okinawa dentro Japón debido al incidente de 1879. Por esta razón es necesario explicar el uso de la expressión 'Estudios Okinawenses' con respecto a Okinawa como prefectura dentro de Japón. Tambien, es frecuente el tratar de encontrar elementos en común entre la cultura e historia de Okinawa (Ryukyu) y la del Japón y los origenes del Japón. Esta actitud ha durado menos de un siglo. Esta actitud sobre de explicar el valor de la historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) dentro del marco japonés ha comenzado a cambiar en las ultimas 3 decadas aproximadamente. La motivacion de pensar sobre la historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) excluyendo el marco japonés le da mas importancia a la pregunta: ¿para los que vivimos en Okinawa cual es el significado de Okinawa (Ryukyu)? La actitud de examinar cuidadosamente ha emergido no solo en Okinawa (Ryukyu) en términos de su propia historia y cultura, pero tambien en el contexto de Asia-Pacífica en considerar al estudio de historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) se ha adoptado popularmente. Sin mas, en lugar de considerar a Okinawa (Ryukyu) dentro de Japón pero poner enfasis en el estudio aparte de Japón proporciona una visión magnificada. El no limitarse a enseñar historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) en términos de su relación con Japón ha sido enfatizado. Esta manera de ver a Okinawa (Ryukyu) desde el punto de vista académico ha ganado apoyo. Con respecto al presente, la gente que quiere aprender sobre de historia y cultura Okinawense (Ryukyuana) no son solo aquellos que pertenecen a Japón como nación sino tambien aquellos que son parte de la region Asiático- pacifica o entre las gente del mundo. Expresaré mis punto de vista al respecto a la necesidad de personas de intereses diversos de hablar libremente al respecto sin arbitrariedades sobre la importancia de la presencia Okinawense (Ryukyuana). (Traducido por Frances M. Mammana)

Ryudai-UH Programa De Intercambio Estudiantil: Promoviendo Educación Internacional Y Fomentar Amistades.

Gay Satsuma
Departamento de Lenguas y Letras del Este Asiático,
Universidad de Hawai en Manoa

Resumen

Desde su principio en 2000, el Programa de intercambio estudiantil Ryudai-UH ha sido un puente de aprendizaje para estudiantes de Okinawa y Hawai. En esta presentación, explicaré el programa de intercambio estudiantil, presentare experiencias estudiantiles, y evaluaré sus resultados y futuro potencial. (Traducido por Frances M. Mammana)

資料—16

Enseñanza Sobre Identidad Okinawense A Traves Del Curso Y Viaje De Estudios *Okinawwenses Local y Globalmente*

Joyce N. Chinen
Profesora de Sociología
Universidad de Hawai en Oahu Oeste

Resumen

Este ensayo trata como se ha explorado el tema de Identidad Okinawense a través de cursos académicos y viaje de estudios. Está dividido en cuatro secciones que describen: 1) el contexto socio-histórico para el desarrollo del curso y viaje de estudios; 2) el modo de estructurar el curso y viaje de estudios; 3) el contenido de ambos el curso y viaje de estudios; y 4) el resultado y recepción del curso y viaje de estudios. La primera parte examina la conmemoración del centenario de la inmigración Okinawense a Hawai y la oportunidad que provee para la reflexión y pensamiento sobre la inmigración de diasporas, y legados de la comunidad. La segunda parte considera las relacionadas pero al mismo tiempo discretas entidades- un curso académico y viaje de estudios- y las dificultades de integración de las dos entidades. La tercera parte se enfoca en las dificultades de crear un curso no tradicional, que no sea completamente un área de estudios ni una especialización conceptual. Y que los esfuerzos para integrar los elementos diversos para formar un conjunto de experiencias que refuercen el contenido de los estudios. Particularmente, la necesidad de colaborar y el desafio de localizar fuentes, guias, y gente de apoyo serán examinados. Finalmente, el ensayo evalua como los estudiantes y aquellos que participaron en el viaje de estudio evaluaron su participación y experiencias derivadas de ambas actividades. El ensayo concluye con ideas acerca de la posibilidad sobre estudios futuros sobre identidad(es) Okinawenses. (Traducido por Frances M. Mammana)

Clases De Lenguaje Y Cultura Okinawense Enseñados En La UHM

Hijirida Kyoko
Profesora de Japonés
Departamento de Lenguas y Letras del Este Asiático,
Universidad de Hawai en Manoa

Resumen

Esta presentación pone énfasis sobre Clases de Lenguaje y Cultura Okinawense enseñados en la UHM, describiendo su desarrollo, contenido, y enseñanza. En 2004, Departamento de Lenguas y Letras del Este Asiático en la UHM, implementó el estudio sobre Okinawa. Para lograrlo, una preparación de dos años de duración fue tomada para delinear el diseño del marco, contenido, y curricula. Nos esforzamos en incorporar communicaciones, Cultura, Conecciones, Comparaciones, y Comunidades (las 5 Cés) estipuladas en el Criterio Nacional de Enseñanza de Lenguas Extranjeras en los Estados Unidos. Los objetivos, contenidos, materiales, actividades de clase, y modos de evaluación fueron desarrollados a través del apoyo del Centro de Estudios Japoneses en la UHM y logrados a traves de la colaboración con la UR y la Universidad Internacional de Okinawa. El curso incluye el idioma, proverbios, folclore, proceres históricos, eventos anuales, musica y danza, lo culinario, y comunidades Okinawenses en Hawai. Los objetivos son los siguientes: (1) entender la importancia del

idioma Okinawense, gramática básica, y comunicación práctica a través de tareas (2) el entendimiento de los valores culturales y maneras de pensar a través de practices en clase (3) apreciaciòn y participación en eventos culturales y actividades que tiene lugar en las comunidades locales Okinawenses en Hawai. Despues de completar las lecciones básicas, los estudiantes son a perseguir sus propios intereses, escribir un ensayo, y expandir su conocimiento sobre el tema de su preferencia. En esta instancia, más y más alumnos demuestran interés en el estudio, vislumbrando un futuro brillante para el programa. Refinamiento de contenidos, diseño de clases, y método de enseñanza podrá fortalecer y promover los Estudios Okinawenses en establecimientos de nivel terciario e Universidades de los Estados Unidos. (Traducido por Frances M. Mammana)

Documentando y Preservando el Idioma Okinawense: Razón y metodo

Stewart Curry
Instructor en Japonés
Universidad de Hawai en Manoa

Resumen

La documentación y preservación de idiomas es una sub-disciplina de la Linguística que que se enfoca en la declinación de la diversidad linguística causada por lenguas muertas. Miles de lenguas a nivel mundial son consideradas en vias de extinción debido a la falta de trasmisión a hablantes de generaciones siguientes. El Okinawense, con una población de hablantes que esta envejeciendo paulatinamente corre un cierto nivel de riesgo de extinción. No obstante, el número de hablantes es considerable en comparación y existe un monto considerable the documentación tanto como educación y movimientos de re-institución de la lengua. El riesgo no es tan pronunciado como el de aquellas lenguas no documentadas, pero hay por lo menos dos areas de oportunidad para expandir su fundación: primero, casi toda la documentación del Okinawense esta hecha en Japonés, e inaccesible al resto de la comunidad en general de linguistas los interesados que no-escolásticos sin acceso al Japonés. Segundo, muchas variedades Ryukyuanas aparte del criterio Okinawense de Shuri-Naha estan sub- documentadas. Trabajos sobre la conservación del okinawense están en marcha en dos frentes dentro de la Universidad de Hawai. El centro Documentación Lenguas del Departamento de Linguística, que entrena a hablantes nativos de lenguas sub-documentadas para producir materials de referencia y preservación, tiene un volumen reducido pero creciente de trabajos en Okinawense. Ademas, el Centro de Estudios Japoneses patrocina la publicación de trabajos de referencia sobre el Okinawense en Inglés, incluyendo el diccionario *Okinawan-English Wordbook*, un glosario limitado de Okinawense basado en la compilación original de Mitsugu Sakihara, y el programado *Complete Okinawan- A Protrait of its Modern and Historical Vocabulary* (titulo provisorio), un diccionario de la lengua de dimensión completa. (Traducido por Frances M. Mammana)

Aspectos De Estudios Ryukyuanos En La Universidad De Hawai, Y Su Conección Con La Universidad De Los Ryukyus

Leon A. Serafim,
Profesor Adjunto de Japonés
Departamento de Lenguas y Letras Asiaticas, Universidad de Hawai en Manoa

Resumen

Yo he estudiado en la Universidad de los Ryukyus (UR) desde 1975 hasta 1977. Soy un Ryukyunista, especializado en la historia del idioma ryukyuano. Hablaré acerca de mi trabajo en la Universidad de Hawai en Manoa (UHM), y su relación con Okinawa y la UR. Enseño el curso del segundo semestre después del curso del primer semestre de la Profesora Kyoko Hijirida, en el tercer año de estudios sobre Lenguaje y Cultura Okinawense, poniendo énfasis en las artes escénicas Okinawenses. El semestre pasado fué el inaugural y completo el cupo de 25 asientos asignados para el curso. El profesor Nakahodo Masanori, experto en Literatura Tradicional y Moderna Okinawense, ofreció ayuda considerable. Usamos la database dedicada al idioma ryukyuano del Profesor Karimata Shigehisa (UR). También, enseño cursos de nivel graduado de Japonés - idioma- historia usando datos relacionados al dialecto Ryukyuano. He participado en el entrenamiento de linguistas con doctorados de la UHM, como por ejemplo mi colega Dr. Stewart Curry (Nakijin), Profesor Shimabukuro Moriyo, UR (historia del acento), and profesor John Bentley (Sakishima). Además, el centro de estudios Japoneses facilita el impartir de mi curso de Historia de Okinawa para el departamento de la UHM. Después de la muerte del Profesor Mitsugu Sakihara su curso fue suspendido. Yo me ofrecí para enseñar su clase, cuya demanda esta en constante crecimiento. El Profesor Sakihara tambien nos dejó su legado de su anteproyecto del Diccionario Okinawense-Inglés. Afortunadamente, muchos (en la UHM y la UR) cooperaron para completar su sueño, incluyendo su viuda, la Sra. Jean Sakihara, Stewart Curry (editor en la UHM), Karimata Shigehisa y yo (editores de supervisión de la UR y la UHM respectivamente), y Shimabukoru Moriyo (vinculo editorial, UR), el Centro de Estudios Japoneses en la UHM, Robert Nakasone (del centro Este-Oeste de la UHM), y Nakahodo Masanori y Machida Munehiro (UR). El diccionario *Okinawan-English Wordbook* se publicó en Julio de este año. En 2009, un diccionario completo será publicado. Lo mencionado representa solo una fracción de la cooperación entre los Ryukyuanistas de estas universidades. (Traducido por Frances M. Mammana)

Estudios Okinawenses En La Universidad de Hawai
Pasado, Presente, Y Futuro

Robert N Huey
Profesor de Japonés,
Departamento de Lenguas y Letras del Este Asiático,
Universidad de Hawai en Manoa

Resumen

La Universidad de Hawai en Manoa celebrará su centenario el año próximo, y es por eso que mi presentación recordará los comienzos de los Estudios Okinawenses en la Universidad de Hawai, revisará lo que hacemos en el presente en Departamentos diversos, incluyendo Estudios Americanos. También expondré planes presentes y futuros sobre colaboraciones entre la Universidad de Hawai y la Universidad de los Ryukyus, incluyendo una versión completa del diccionario Okinawense- Inglés de Sakihara, y la posibilidad de programas conjuntos que otorguen títulos y certificaciones. (Traducido por Frances M. Mammana)

資料—19

Condiciones y Planteos de los Estudios Okinawenses en La Universidad de los Ryukyus

Uezato Kenichi
Profesor de Literatura,
Cultura Comparativa y Area de Estudios, Facultad a nivel graduado de Humanidades y Ciencias Sociales, Colegio de Letras y Leyes, Universidad de los Ryukyus

Resumen

En abril de 2006, se estableció Programa de Cultura Regional Comparativa que es el primer programa doctoral en la prefectura de Okinawa ofreciendo títulos en los campos de Sociologia y Humanidades con el objetivo de promover la educación e investigación que se enfoquen en las condiciones geográficas históricas y culturales peculiares en Okinawa. La Universidad de los Ryukyus es la única que tiene la capacidad de de proveer educación en Letras y leyes, Educación, Física, Ingenieria, Agricultura, y Medicina. Con la excepción del Departamento de Educación todos los departamentos se han establecido una carrera doctoral exhibe sus característica en una intima conección con el sector regional. Investigaciones de arrecufes de coral y estudios de recursos oceánicos en el Departamento de Ciencia, Agricultura Subtropical, Ciencias de Destilería en el Departamento de Agricultura energía solar, energia de viento, energia de olas maritimas en el Departamento de Ingenieria; enfermedades infecciosas, medicina subtropical del Departamento de Medicina, y Estudios Comparativos Culturales y Regionales de Okinawa (Ryukyu) en el Departamento de Leyes y Letras. El Departamento de Leyes y Letras conduce investigaciones en las areas de política, Economia, Ley, Sociología, Filosofía, Sicología, Linguística, Literatura, Historia, Geometría, Estudios Etnicos, y Arqueología. Cada campo de investigación cubre vastas regiones como el arco Ryukyuano, Japón, Asia, las islas del Pacifico, los Estados Unidos de America, y Europa. Este campo de investigación tiene el objetivo de atravesar estas areas, y al mismo tiempo, establecer un punto de vista comparativo de estas areas posibilitando la creacion de temas interesantes que son exclusivos de este Departamento. La biblioteca adjacente, tiene como centro la sala de recursos locales, que incluye las colecciones de Iha, Nakahara, Sakihara, Oohama, los recursos de Nakasone, Miyara Dunchi que cuentan con recursos relacionados con Ryukyu/Okinawa y Asia Pacífica. En nuestra Universidad se cuenta con el Centro de Estudios de las Islas Asiático-Pacificas, el Centro de Estudios Americanos (norte), el Centro de Investigaciones Migratorias, y el Departamento de Leyes y Letras tiene instalaciones de Investigación Asiática. La carrera de Cultura Regional Comparativa creará con contactos con cada uno de estos centros e instalaciones de investigación y conducirá enseñanza e investigaciones. Al mismo tiempo, como interconneción de los Estudions Okinawenses/ Ryukyuanos desde el ángulo de las humanidades y sociología qurriamos hacer coneccion con los paises asiáticos vecinos y con la Universidad de Hawai con la cual ya existen lazos profundos a traves de la Inmigración desde Okinawa. (Traducido por Frances M. Mammana)

資料—20

ハワイ大に「沖縄研」

同大教授　設置計画発表

第四回世界のウチナーンチュ大会に合わせて十五日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた沖縄研究世界ネットシンポジウム「世界の『沖縄学』へ」（主催・琉球大学移民研究センター）で、ハワイ大マノア校のロバート・N・ヒューイ教授が沖縄の言語や文化、歴史研究などを行う「沖縄研究センター（仮）」を同大に設置する計画を明らかにした。

同教授によると、すでに大学理事会はセンター設置を了承、二〇〇七年秋までの具体化を目指す予定。海外の大学で「沖縄」をテーマにした総合研究機関の設置は初めて。

ヒューイ教授はセンター設置の意義について、「ハワイの沖縄コミュニティーの存在や地理的条件など、ハワイでの沖縄研究は重要な意味を持つ。沖縄とハワイとの交流をより活発化させる拠点にしたい」と強調した。

琉大移民研究センター長の町田宗博教授は「海外初のセンター発足で沖縄研究の英語出版物が飛躍的に増えるだろう。世界の情報ネットの拠点になる」と、ハワイ大のセンター設置に大きな期待を寄せた。

2006年10月16日沖縄タイムス

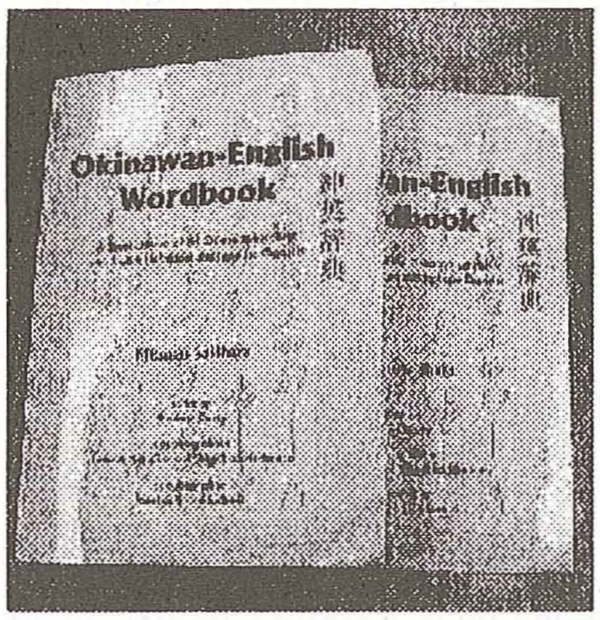
沖英辞典を発刊

ハワイ大学と琉大共同研究

沖縄方言9800語を英訳

移民者や研究者へ活用期待

沖縄方言を英訳した辞書「Okinawan-English Wordbook（沖英辞典）」がこのほど、ハワイ大学と琉球大学の共同研究で発刊された。沖縄の民俗や伝統的な生活など多彩な方言約九千八百語がローマ字、英訳で紹介されている。関係者は「沖縄の歴史や文化などの理解を助ける初の本格的な英訳辞典。海外移民者や沖縄研究者にも役立つ内容だ」とし、多方面での活用を期待している。



「Okinawan-English Wordbook（沖英辞典）」

辞典は、ハワイ大学教授だった故崎原貢さん（那覇市出身）が生前にまとめた那覇方言の草稿を基礎に、ハワイ大学マノア校東アジア言語・文学科のステュワート・カリー講師、レオン・A・セラフィム助教授、琉球大学の狩俣繁久教授、島袋盛世助教授らが約一年半かけて編集・監修した。

「使いやすさを目指した」（狩俣教授）というように、英文での解説や凡例、索引も掲載。ローマ字読みも「kumiwudui」（組踊）とするなど、方言の発音を忠実に表記した。

多彩な沖縄方言を英訳、例文で収録した「沖英辞典」の発刊を報告する狩俣教授（右から2人目）ら関係者＝17日午前、県庁記者会見室

十七日に県庁で行われた会見で、ハワイ大学日本研究センターのロバート・ヒューイ所長は「辞典はハワイ大学の講義でも使う。来年秋にはハワイ大学に沖縄研究センターも開設される予定で、沖縄を世界に発信する機会も増える」と辞典の活用に期待を寄せた。

辞典は第四回ウチナーンチュ大会の特別招待者にも土産品として贈呈された。三千冊発行し、定価は一冊十二ドル（約千五百円）。売り上げはハワイ大学での日本研究の資金に充てられる。

県内での発売先は未定だが、インターネットで購入できる。辞典に関する問い合わせメールアドレスはwww.uhpress.hawaii.edu

2006年10月18日琉球新報

資料—21

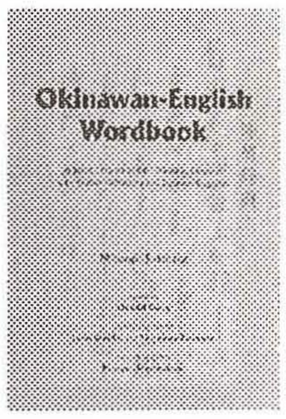
The Center for Okinawan Studies at UH Mānoa

The Okinawa Sanshin Club at UH

UH has proven its dedication to Okinawan studies:

- UHM library maintains the Sakamaki/Hawley Collection consisting of over 5,000 items, one of the most important collections of Okinawan materials outside Japan.
- Since 1961, UH has offered courses in Okinawan anthropology, dance, music, history, language, and linguistics.
- Faculty and graduate students at UH have produced new research in Okinawan culture, literature, and linguistics.

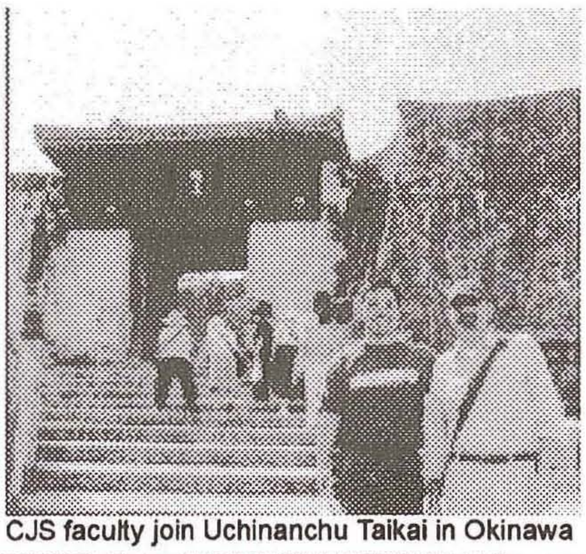
There is sufficient interest among the students, faculty, and community to warrant the creation of an independent Center for Okinawan Studies. Up till now, research on Okinawa at UH has been supported by the Center for Japanese Studies, which has:

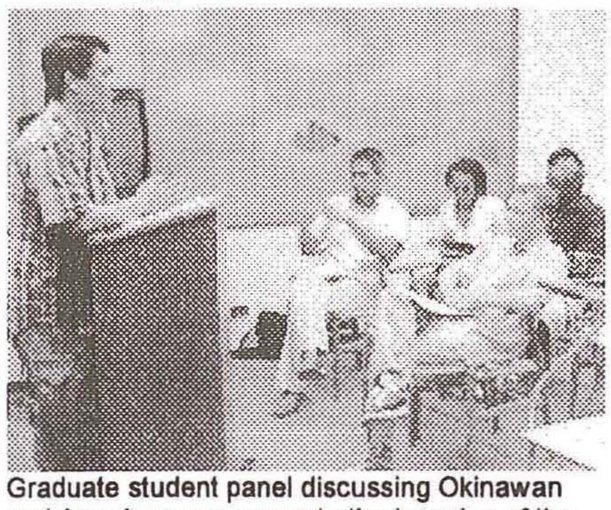


- Funded the development of a two course series on Okinawan Language and Culture.
- Coordinated a student-exchange program.
- Coordinated publication of an Okinawan-English dictionary.

The Center for Okinawan Studies will be an independent research center that will:

- Promote Okinawan studies, including culture, language, and diaspora.
- Conduct outreach, including workshops, lectures, seminars, and conferences.
- Support the development of courses related to Okinawan studies.
- Promote publications on Okinawa.
- Coordinate exchanges between UH and the University of the Ryukyus.
- Pursue joint certificate and/or degree programs with the University of the Ryukyus.
- Maintain a website and publish a newsletter on its activities and programs.
- Be involved with fundraising.


CJS faculty join Uchinanchu Taikai in Okinawa


Graduate student panel discussing Okinawan and American responses to the legacies of the Battle of Okinawa.

The Center for Okinawan Studies is important to Hawai'i.

- This Center at UHM would attract students and scholars who are interested in Okinawan studies, since this would be the only center of its kind in the United States.
- Hawai'i's Okinawan population is active in the community in business, education, and politics.
- The Okinawan community sponsors one of the most popular festivals in Hawai'i attracting 40,000 to 50,000 visitors (source: Library of Congress).
- This Center for Okinawan Studies would reflect the multicultural diversity of Hawai'i.

The Center for Okinawan Studies requests your support. Establishing and maintaining the Center requires modest funding for staff and office needs.

Center for Okinawan Studies
c/o Center for Japanese Studies
School of Hawaiian, Asian and Pacific Studies
1890 East-West Road, Moore Hall 216
Honolulu, HI 96826
Tel: (808) 956-2665 Fax: (808) 956-2666